

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103399		
法人名	株式会社 はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)		
所在地	和歌山県和歌山市福島486-1		
自己評価作成日	平成23年2月16日	評価結果市町村受理日	平成23年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103399&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは入居者様に時間に捉われず、可能な限り御自身のペースで過ごして頂けるよう支援しています。また、日常生活の関わりの中から、本人の意欲を引き出し、できることやしたいことを奪わず、その人らしい生活を送って頂けるよう支援を行っています。職員の年齢や性別も非常にバランスがとれており、ケアに対しても前向きで、状況に応じて柔軟に対応できる力が育ちつつあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

紀ノ川の河口の土手近くの住宅地に位置する当該ホームは、地域との交流を大切にし日常的な交流や地域の高校の体育祭を見学に行かれ組体操や対抗リレーの応援を楽しみにされています。ホーム内では利用者は家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごされています。共に暮らす中で毎日の食事は利用者職員が話し合いで作られた献立を利用者もキッチンに入り一緒に調理され、できることに力を発揮しています。医療面では協力医の内科、歯科が毎週訪問しており、訪問看護は毎週の訪問で利用者一人ひとりに声をかけて体調の変化を見逃さない丁寧な対応をされています。また、訪問すると手洗いと消毒を行なう様に指導され感染症予防管理もされていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが見える場所に提示し、スタッフは理解し実践している。	法人の理念とはるすのお家・和歌山独自の理念がそれぞれ玄関、事務所に掲示されています。日々のケアの中で対応に苦慮した時は理念にたち戻って実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は隣近所の方と日常的に挨拶を交わしており、自治会にも参加している。近隣小学校や他の福祉施設の行事等にも顔を出させていただいている。	自治会に加入し、地域の溝掃除などに利用者と職員が参加しています。地域の高校で組体操が有名な体育祭に招待され見学に出かけたり、中学生の職業体験の場として継続して子ども達との交流する機会があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の職場(職業)体験学習を継続的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での結果をユニット会議で報告し話し合い、改善に取り組んでいる。	運営推進会議は、家族や包括支援センター職員、法人のグループホーム事業部長、職員等の出席を得て開催しています。ホームの運営状況、行事の予定や報告をして意見いただいておりますが、今年度は2~3回の開催にとどまっています。	今後は運営推進会議を2ヶ月に一度開催されるよう行事と一緒に رفتり日程の調整等の取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種手続きで行き来する機会があり、何か困ったことや相談事があれば連携していただいている。	生活保護等の諸手続きに出向き、市担当者とはよく話す機会を積極的につくり、関係作りに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要な場合には 家族様・医師の同意を得ることになっている。また、言葉の拘束にも気をつけ、日々のケアに努めている。	各ユニットの出入り口は鍵をかけておらずホームの敷地は広いので入居者は自由に外に出ています。門の扉は施錠されていますが、その前で外に出たような様子が見られた時は職員と一緒に散歩に出かけています。また、身体拘束禁止委員会で言葉の拘束等についてもよく話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時、管理者より指導、または職員間で話し合うことにより、全職員が理解できている。		

グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であれば社会福祉協議会・地域包括センターに相談しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時等には、不安や疑問等を聴き、十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時・行事等の際に職員が意見・要望・苦情を聞いている。聞いた意見・要望は可能な限り反映している。苦情・相談を受けた場合は苦情(相談)対応記録に記録し再発防止に努めている。	面会時や運営推進会議に参加している家族からはよく意見や要望を聞いています。ホームの夕涼み会、忘年会などの行事に家族に参加していただき話す機会を持っています。参加されない遠方の家族には電話等で話しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は随時の面談やミーティング時等に職員の意見を聞き可能な限り反映している。	管理者、ユニットマネージャーがミーティング時には意見や提案を聞いています。また、管理者は職員と個別の面談で話す機会も設けたり、必要に応じて本社にも意見を伝え運営に反映されるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の際に面接を行い個々の目標を作成し、自身の向上に繋げている。人事考課は年に2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には管理者、ベテラン職員より指導をおこなっている。管理者・ベテラン職員は段階に応じた外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人地域密着型サービス ケアネット和歌山に参加している。近隣のNPO法人のフェアにも積極的に参加している。		

グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時、入居時には本人から話を聴く機会を設け、できる限り不安を取り除いた状態でサービスが開始できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に家族様と十分話し合う機会を設け、その後も気兼ねなく何でも相談し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人、家族様からの聞き取りにて支援すべきことを計画し、その後は実際に入居されてからの様子観察を行いながら対応している。。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とは家族のような関係を築けるよう、共に炊事、洗濯、掃除をおこなっている(可能な範囲で)。食事は職員も一緒に座り、食べるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か相談したいことがあれば家族様と協力しながら、一緒に解決できるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時に電話をしたり、面会に来て頂いている。	入居前に住んでいたアパートの管理者が訪ねてこられることもあります。入居者の希望で馴染みの方に電話をかけ面会に来ていただくなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、良好な人間関係作りを支援している。。		

グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族様の要望がある場合、または情報提供が必要な場合等は支援させていただく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床・食事・入浴等の時間は本人に相談し、可能な限りご希望に添えるようにしている。また、日々の関わりや会話の中から、意欲を見つけ出し、できることや、したいことができるよう支援している。	日々の生活の中での会話や関わりの中から意向や思いを聞くように努めています。困難な利用者についてはふともらした一言を大切に思いを把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設からの情報記録・看護サマリーを個人ファイルに保管し、家族様からも面談や電話にて聞き取りさせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録、申し送りにて現状の確認を行い、変更や検討すべき点があれば、その都度検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者とユニット職員で、課題、ケアの方針を十分に話し合い、家族様にも同意を頂きながら作成している。定期的な見直しと、状態に応じての見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	独自のアセスメントシートから利用者、家族の希望を検討し、それを踏まえ職員や医師、訪問看護師の意見も取り入れケアプランを作成しています。1ヶ月に一度モニタリングの会議を実施し3ヶ月に一度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録に記入し、ケアの実践や介護計画の作成に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制により、24時間体調管理を行っている。また、急な通院時にも家族様と相談し、柔軟に対応している。		

グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や防災指導を行い、情報交換や指導を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族様に決定していただいている。特に希望の無い場合には当ホームの協力医療機関の医師の往診により支援をおこなっている。	入居前のかかりつけ医の継続は可能であることを説明しています。ほとんどの入居者はホームの協力医に変更しています。週に一度の協力医と歯科の往診があり、訪問看護師も週に一度訪問日には時間をかけて入居者一人ひとりに声をかけ話を聞きながら健康管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か変わった様子があれば、連携している訪問看護ステーションに速やかに連絡、相談を行い指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には各機関と情報交換を行った上、職員間で情報を共有し、退院後の受け入れ態勢を整え早期に対応できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様・主治医・訪問看護と連携し十分に話し合い、方針を共有している。	重度化にむけてのホームの方針は入居時に説明しています。重度化された利用者には、必要に応じて医師、家族、ホームで話し合い同意を得ています。何度も話し合いを重ね対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており研修への参加は行っているが、全ての職員は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練を実施している。また、数日分の食糧の備蓄をしている。	22年度迄の義務付けとなっているスプリンクラーの設置も完了しています。年2回の避難訓練を、一度は消防署立会いで一度は自主訓練で夜間想定でも実施しています。運営推進会議で報告等はしていますが地域との協力体制には至っていません。	スプリンクラー設置や避難訓練の様子を地域へ伝えたり、避難訓練の見学の声かけされてみてははいかがでしょうか。

グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報情報は慎重に取り扱っている。言葉掛けや対応については、管理者よりその都度指導している。	入居されて月日を重ねるほど親しさが増し言葉使いが馴れ馴れしくなってくるため、管理者は特に気をつけて不用意な言葉を聞いた時は直ぐに注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中から、本人の希望や意欲を引き出せるよう努めている。自己決定が困難な方は、声掛けの仕方をわかりやすく工夫したり、選択肢を作る等している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外の取り決めはなく、起床・就寝時間等、可能な限り一人一人の生活ペースに合わせた支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用している。なかには面会時に家族様がされる事もある。整容の支援が必要な方は支援し、身だしなみを整えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目でも楽しめるよう盛り付けにも工夫している。また、職員と一緒に食事をとり、その準備や後片付けをお手伝いして頂いている。	献立は入居者の希望を聞きながら決めており、隔日に買い物に出かけています。準備や後片づけも出来る利用者と一緒にしています。職員はベテランの主婦も多く野菜中心の家庭の味を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を目標にメニュー作成している。また、定時の水分補給もおこなっている。その食事量・水分量を記録し、情報の共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄を促し、本人の力に応じて一部介助を行い、清潔保持に努めている。。		

グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握して声掛け、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握して個々に合わせたトイレ誘導を心がけています。夜間も安易にオムツを利用するのではなく声かけや誘導をしてトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルト等を取り入れるなど、飲食物の工夫を行っている。排泄チェック表にて排便の有無確認を行い、便秘症の方は医師に相談しながら対応している。。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間に捉われず、本人がスムーズに入浴できる頃合いを見計らって、声掛けを行っている。	入浴したい時はいつでも入浴できるようにしています。一人ひとりお湯を換え好きな湯温、入浴剤で楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医師から適度な休息を指示されている方は一定時間休息して頂いている。睡眠状況は毎日確認しており、個々の状態に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はすぐに目にすることができるようファイルに挟んであり、職員は薬の内容を把握している。また、服薬後の状態を観察し、変わったことがあれば医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何かをしたいという意欲は尊重し、個々に合わせて役割を持って頂いている。趣味活動も声掛けを行いながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に同伴される事はあるが、なかなかその日の希望には沿っていない。適度に外出行事は計画している。	ホームから一歩でも外へ出ることを心がけ敷地内を歩いてみたり、2日に一度の食材の買出し利用者も一緒にでかけています。地域の高校の体育祭に出かけたり季節の花見などにも出かけています。	

グループホームはるすのお家・和歌山(せせらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方には少額で所持していただいております、買い物の際等、自分の欲しい物はそこから買っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用可能な方には自由に使用して頂いている。自己にて困難な方には職員が支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、音や光には十分配慮している。季節ごとの飾りや塗り絵等を掲示している。	所々にソファが置かれていて一人を楽しむスペースも確保され、各所に置かれた季節の生け花の水仙が香っていてゆったりと過ごせる空間となっています。食事が楽しみなるような調理の良いにおいも漂い、家庭的な雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて居室やリビング・和室等を活用している。暖かい時は、玄関先や中庭を活用することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、長年使用し使い慣れた家具等、馴染みの物を持参して頂ける様お願いしている。必要に応じ、その都度家族様へ連絡している。	居室は広いクローゼットがあり、基本的にはベッドを使用してもらっていますが、希望に応じて畳敷きやカーペットの使用で布団を敷き休む利用者もいます。使い慣れた家具や小物をその都度家族と相談しながら持ってきていただき居心地よく過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子用トイレ有り。トイレや浴室・廊下には手すりを設置している。居室やトイレ・風呂場は分かり易い様に表示している。		